

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	ごえん		
○保護者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 10月 31日		
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 5名
○従業者評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 10月 31日		
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○訪問先施設評価実施期間	2025年 10月 1日 ～ 2025年 10月 31日		
○訪問先施設評価有効回答数	(対象数)	7施設	(回答数) 5名施設
○事業者向け自己評価表作成日	2025年 11月 1日		

○ 分析結果

	事業所の強み（※）だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	複数の専門職が訪問支援員で在籍している為、ニーズに合わせた専門職の訪問が可能。また、同法人内に多職種が在籍している為、直接訪問を行うスタッフが分からないことも、情報を共有したりアドバイスしたりできる。	児童の困りごとへの対応だけでなく、保護者と学校や保育園がより良い関係になるよう、心掛けています。	専門職の自己研鑽によるスキルアップを図っています。
2	通所サービスもある為、訪問時以外の様子も直接見ることができる。	訪問の際だけでなく、送迎の際にも本児の様子をできる限り詳細にお伝えするように努めています。	事業所に来てもらい、療育の様子を実際に見てもらうことでより充実した連携を図ります。
3	障害特性に精通したスタッフが在籍しており、特性に合わせた助言、アドバイスを行うことができる。	なんでこんなことをするの？等の疑問に対して本人の視点からはこのように感じているのかも、という視点を取り入れながら分かりやすくお伝えするように工夫しています。	特性理解をより深めて本人にあった療育や解決方法を提案します。

	事業所の弱み（※）だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	主に週1回（水曜日）の営業である為、訪問して欲しいと言われた日に柔軟に対応できないことがある	保育所等訪問としての営業日を増やせるよう、職員の充足を図る。	適切な助言のできる訪問指導員の育成および配置。
2	児発管が主に保護者とお話をする為、訪問支援員と保護者が直接お話しする機会が少ない	訪問支援員は現場に出ていることが多い。また、保護者対応は児発管が行うことが多い。	訪問支援員と保護者がお話しできる機会を設ける。
3	実績が少ない	保育所等訪問を行っていることを広く知ってもらえていない。	保護者に保育所等訪問の紹介を行ったり、関係機関に保育所等訪問を行っていることをお伝えしたりする。また、相談支援員にもお伝えする。